

2026年8月14日

学修実態および授業評価 に関する報告書

2026年春学期

清泉大学 人間学部
IR室

目的

- 清泉大学 人間学部 の授業科目における学修実態を把握する.
- 項目に応じて「学年別」×「授業形態」別, または「7つの力」別に分析する.
- 本学の教学マネジメント体制における, 教育課程の編成に関する全学的な方針の検討への基礎データとして活用する.
- 調査項目
 - I 学修実態(①学修時間, ②予復習の実態)
 - II 授業評価
 - III 授業満足度

■ 調査時期

- ・ 2026年7月

■ 調査対象

- ・ 清泉大学 人間学部(心理コミュニケーション学科4学年・文化学科3・4年)を対象.
- ・ 分析対象は, 2026年度春学期に開講した人間学部科目のうち91科目(※). 総回答数1,635件.

表1 配当年次・授業形態別 人間学部科目の分析対象

配当年次		講義	演習	実習	計
人間学部全体	1年次科目	7	16		23
	2年次科目	14	14	2	30
	3年次科目	9	18	5	32
	2・3年次科目			2	2
	4年次科目		4		4
総計		30	52	9	91

(※)アンケート回答があった科目のみ掲載 (実際の開講科目数とは異なる)

人間学部科目 分析対象

表2 配当年次・授業形態別・学科/コース別 人間学部科目の分析対象

学科	コース	配当年次	講義	演習	実習	総計
心理 コミュニケーション学科	心理コース	1年次科目	2			2
		2年次科目	6	4		10
		3年次科目	5	8	4	17
		コース全体	13	12	4	29
	英語コミュニケーション コース	1年次科目	1	2		3
		2年次科目	3	6	1	10
		3年次科目	1	6		7
		コース全体	5	14	1	20
文化学科		2年次科目	2	3		5
		3年次科目	3	4	1	8
		4年次科目		4		4
		文化学科全体	5	11	1	17
教養教育科目		1年次科目	4	14		18
		2年次科目	3	1	1	5
		2・3年次科目			2	2
		教養教育科目全体	7	15	3	25
人間学部全体			30	52	9	91

調査項目および分析の枠組み

本報告では、授業評価アンケートの設問を分析目的に応じて3つの調査項目に整理した。

- Ⅰ「学修実態」ではQ2・Q3を、Ⅱ「授業評価」ではQ5～Q14を、Ⅲ「授業満足度」ではQ15を用いて分析した。
- Q2・Q3は「配当年次×授業形態別」、Q5～Q14は各科目が対応する「7つの力」別に集計した。
- Q2は「0分」から「2時間以上」までの5段階、Q3は予習・復習の取組状況を5区分、Q4～Q15は「そう思わない」から「そう思う」までの5件法で回答を求めた。

調査項目	分析対象設問	分析軸	分析目的	回答方法
Ⅰ 学修実態	Q2, Q3	配当年次×授業形態	学修時間・予復習の実態把握	Q2:時間区分による5件法／Q3:予習・復習の取組区分
Ⅱ 授業評価	Q5～Q14	「7つの力」別	学習成果目標に対応する科目群の授業評価を把握	「そう思わない」～「そう思う」の5件法
Ⅲ 授業満足度	Q15	配当年次×授業形態	授業全体の評価を把握	「そう思わない」～「そう思う」の5件法

調査項目 I 学修実態の調査

調査項目 I -① 学修時間(人間学部全体) 記述統計

表3 配当年次・授業形態別 人間学部全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	2.41 (0.34)	7	2.44 (0.45)	16			2.43 (0.42)	23
2年次科目	2.46 (0.49)	14	2.90 (1.01)	14	3.00 (0.00)	2	2.70 (0.80)	30
3年次科目	2.38 (0.66)	9	3.37 (0.93)	18	3.05 (1.07)	5	3.04 (0.98)	32
2・3年次科目					2.90 (0.38)	2	2.90 (0.38)	2
4年次科目			4.13 (0.54)	4			4.13 (0.54)	4
人間学部全体	2.43 (0.52)	30	3.01 (0.95)	52	3.00 (0.82)	9	2.82 (0.86)	91

- 人間学部全体における学修時間の平均値は2.82(推定54.4分)であった。過去5か年の推移では低下傾向にあったが、2026年度は上昇に転じた。
- 授業形態別では演習3.01, 実習3.00が講義2.43を上回った。配当年次別でも、1年次2.43, 2年次2.70, 3年次3.04, 4年次4.13と、高年次ほど学修時間が長い傾向がみられた。
- 特に3年次以降の演習・実習で学修時間が長く、専門性の深化に伴う学修負荷の増加が反映されている可能性がある。

参考
過去5か年の推定
学習時間推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
46.7分	48.5分	49.2分	52.2分	53.7分

調査項目 I -① 学修時間(教養教育科目) 記述統計

表4 配当年次・授業形態別 教養教育科目全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	2.35 (0.40)	4	2.42 (0.45)	14			2.40 (0.44)	18
2年次科目	2.37 (0.20)	3	2.04 (0.00)	1	3.00 (0.00)	1	2.43 (0.35)	5
2・3年次科目					2.90 (0.38)	2	2.90 (0.38)	2
教養教育科目全体	2.36 (0.33)	7	2.39 (0.45)	15	2.93 (0.31)	3	2.45 (0.44)	25

- 教養教育科目の学修時間平均は2.45で、人間学部全体2.82を下回った。
- 授業形態別では講義2.36、演習2.39とほぼ同水準であり、専門科目にみられるような授業形態による大きな差はみられなかった。
- 配当年次別でも1年次2.40、2年次2.43とほぼ同水準であり、教養教育科目では年次進行に伴う明確な増加傾向はみられなかった。

参考
過去5か年の推定
学習時間推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
44.1分	50.2分	43.8分	48.6分	50.0分

調査項目 I -① 学修時間(心理コミュニケーション学科 心理コース) 記述統計

表5 配当年次・授業形態別 心理コース全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	2.54 (0.21)	2					2.54 (0.21)	2
2年次科目	2.26 (0.48)	6	2.34 (0.32)	4			2.29 (0.42)	10
3年次科目	2.08 (0.38)	5	3.32 (1.24)	8	3.06 (1.19)	4	2.89 (1.18)	17
心理コース全体	2.24 (0.44)	13	2.99 (1.13)	12	3.06 (1.19)	4	2.66 (0.98)	29

- 学修時間の平均値は2.66(推定49.9分)であり, 人間学部全体2.82を0.16ポイント下回った.
- 近年, 学修時間は低下傾向にあったが, 3年次の演習・実習では大きく伸び, 専門的・実践的な学びが深まる段階での負荷増加が明確にみられた.
- 授業形態別では, 講義2.24, 演習2.99, 実習3.06である. 演習・実習は講義より0.75~0.82ポイント高く, 課題, 事前準備, 技能練習, 授業後の振り返りを伴う学習が, 参加型・実践型科目に集中している可能性がある.
- 3年次では, 演習3.32, 実習3.06に対し, 講義は2.08であり, 授業形態による差が認められる. 演習・実習の標準偏差は各1.24, 1.19と大きく, 科目ごとの課題量や学修時間に差が生じていると考えられる.

参考
過去5か年の推定
学習時間推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
38.5分	36.4分	46.8分	51.9分	56.6分

調査項目 I -① 学修時間(心理コミュニケーション学科 英語コミュニケーションコース) 記述統計

表6 配当年次・授業形態別 英語コミュニケーションコース全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	2.43 (0.00)	1	2.56 (0.38)	2			2.51 (0.31)	3
2年次科目	2.58 (0.57)	3	2.86 (0.62)	6	3.00 (0.00)	1	2.79 (0.59)	10
3年次科目	3.00 (0.00)	1	3.49 (0.52)	6			3.42 (0.51)	7
英語コミュニケーションコース全体	2.64 (0.48)	5	3.09 (0.65)	14	3.00 (0.00)	1	2.97 (0.63)	20

- 学修時間の平均値は2.97(推定59.1分)であり、人間学部全体2.82を0.15ポイント上回った。いずれの授業形態、配当年次においても標準偏差値は小さくなく、比較的安定して学修時間が確保されているといえる。
- 昨年度同期と比べて学修時間はおおむね同水準であり、英語コミュニケーションコースは引き続き学部内でも比較的長い学修時間が確保されている。
- 学年別では、1年次2.51、2年次2.79、3年次3.42であり、高年次になるにつれて段階的に学修負荷が増加している。

参考
過去5か年の推定
学習時間推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
59.7分	60.4分	62.1分	65.4分	60.2分

調査項目 I -① 学修時間(文化学科) 記述統計

表7 配当年次・授業形態別 文化学科全体の学修時間の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
2年次科目	3.00 (0.00)	2	4.00 (1.41)	3			3.60 (1.20)	5
3年次科目	2.67 (0.85)	3	3.30 (0.60)	4	3.00 (0.00)	1	3.03 (0.74)	8
4年次科目			4.13 (0.54)	4			4.13 (0.54)	4
文化学科全体	2.80 (0.68)	5	3.79 (0.96)	11	3.00 (0.00)	1	3.45 (0.97)	17

- 学修時間の平均値は3.45(推定72.7分)であり、人間学部全体2.82を0.63ポイント上回った。ただし、回答対象が3・4年次中心であることから、他区分との比較には留意が必要である。
- 2年次演習科目において、標準偏差が大きく出ており、演習3科目間での学修時間に差があることがうかがえる。
- 4年次演習科目において、学修時間が長い傾向にあり、演習科目において卒業研究・専門演習等に関連する学修負荷の増加が反映されている可能性がある。対象科目数は多くないものの、標準偏差は0.54であり、比較的安定して高い学修時間が確保されていることがうかがえる。

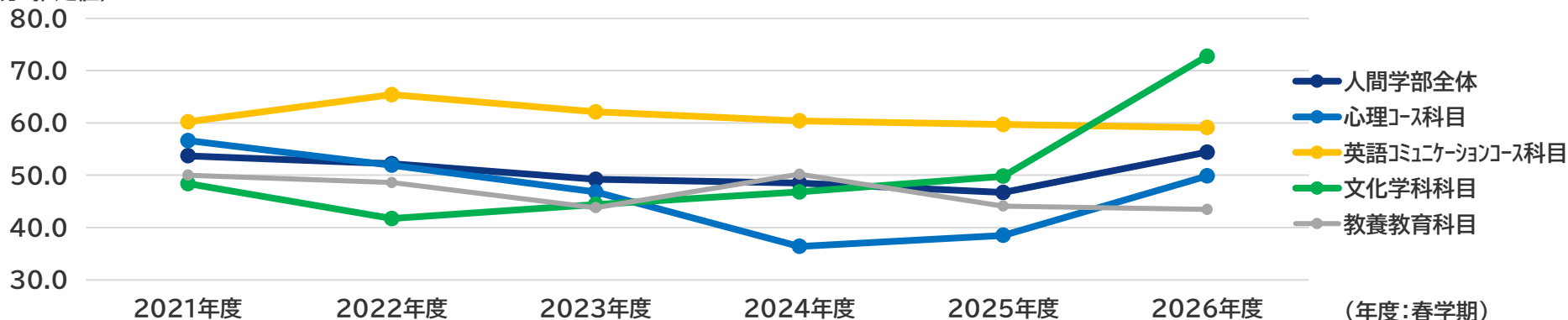
参考
過去5か年の推
定学習時間推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
49.8分	46.8分	44.4分	41.7分	48.4分

調査項目Ⅰ-① 学修時間の学科・コース別経年推移

表8 人間学部/学科/コース の学修時間推移グラフ(分換算した値)

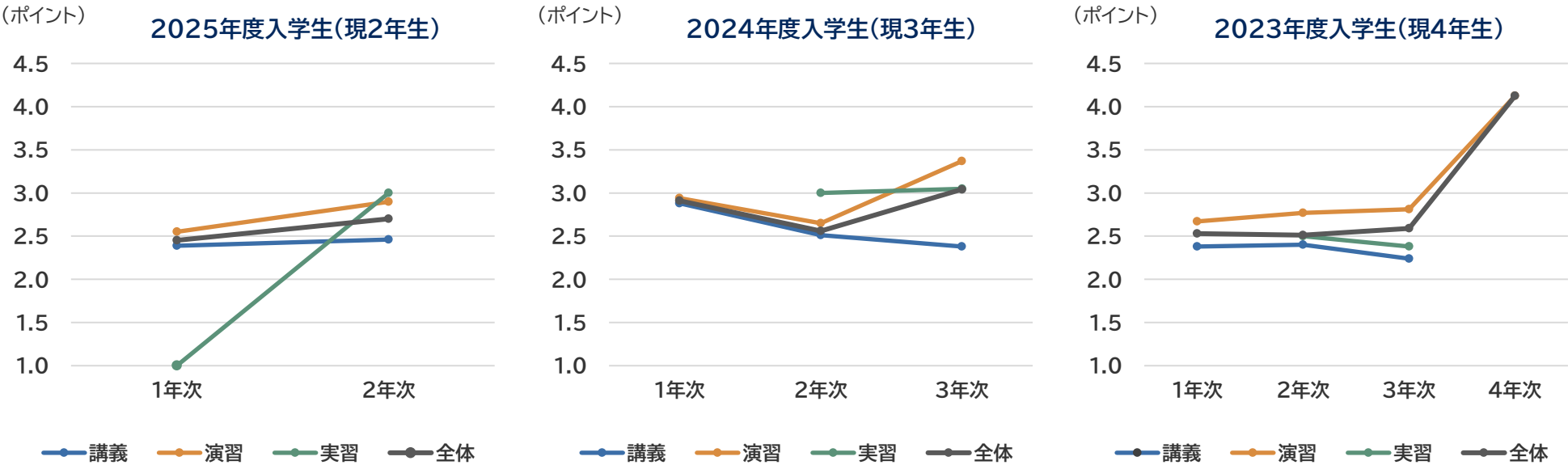
(分:推定値)



年度	人間学部全体	心理コース科目	英語コミュニケーションコース科目	文化学科科目	教養教育科目
2021年度	53.7	56.6	60.2	48.4	50.0
2022年度	52.2	51.9	65.4	41.7	48.6
2023年度	49.2	46.8	62.1	44.4	43.8
2024年度	48.5	36.4	60.4	46.8	50.2
2025年度	46.7	38.5	59.7	49.8	44.1
2026年度	54.4	49.9	59.1	72.7	43.4

調査項目 I -① 入学年度コホート別学修時間の推移(人間学部全体)

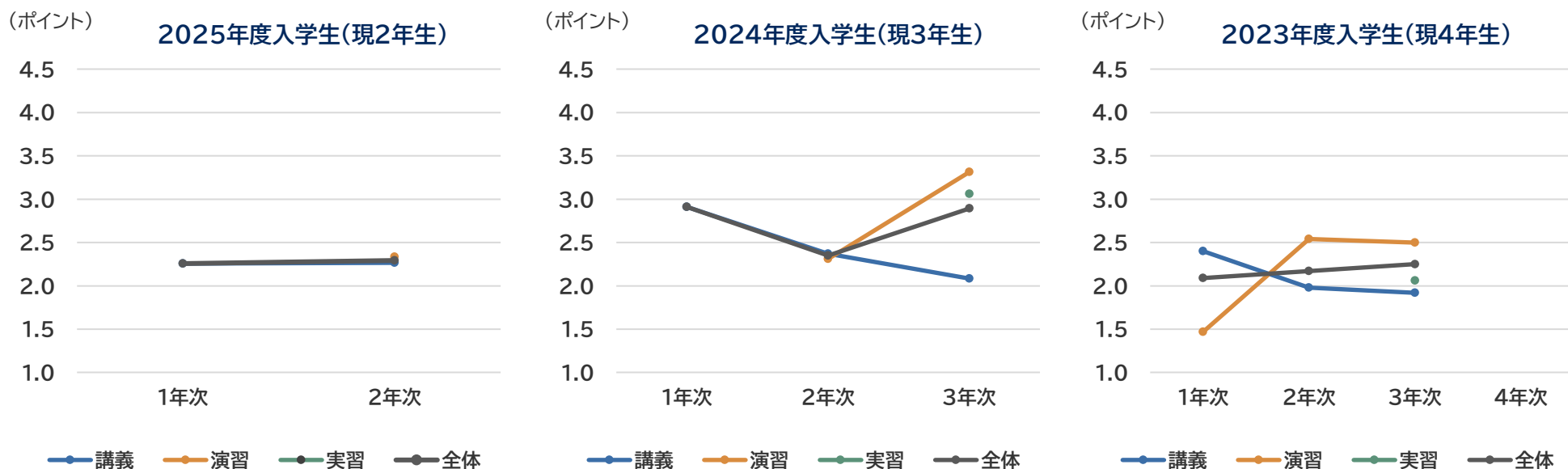
表9 人間学部全体 入学年度コホート別在学生の学修時間推移



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2025年	1年次	2.39	2.55	1.00	2.45
	2年次	2.46	2.90	3.00	2.70
2024年	1年次	2.88	2.94		2.91
	2年次	2.51	2.65	3.00	2.56
	3年次	2.38	3.37	3.05	3.04
2023年	1年次	2.38	2.67		2.53
	2年次	2.40	2.77	2.50	2.51
	3年次	2.24	2.81	2.38	2.59
	4年次		4.13		4.13

調査項目 I -① 入学年度コホート別学修時間の推移(心理コミュニケーション学科 心理コース)

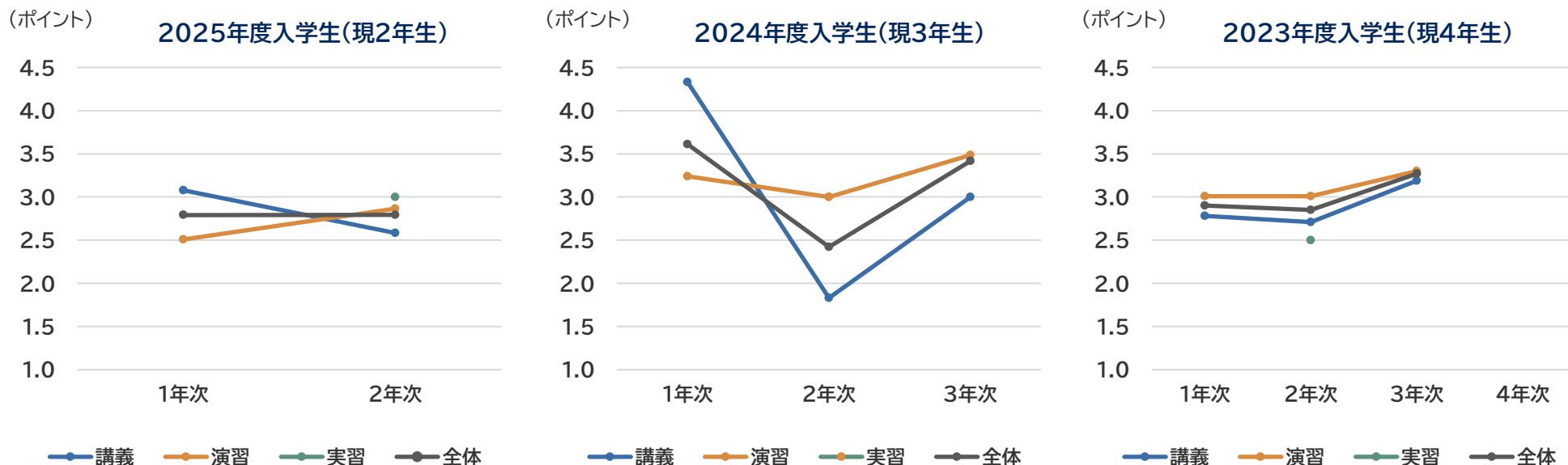
表10 心理コース 入学年度コホート別在学生の学修時間推移



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2025年	1年次	2.26			2.26
	2年次	2.26	2.34		2.29
2024年	1年次	2.91			2.91
	2年次	2.37	2.31		2.35
	3年次	2.08	3.32	3.06	2.89
2023年	1年次	2.40	1.47		2.09
	2年次	1.98	2.54		2.17
	3年次	1.92	2.50	2.06	2.25
	4年次				

調査項目 I -① 入学年度コホート別学修時間の推移(心理コミュニケーション学科 英語コミュニケーションコース)

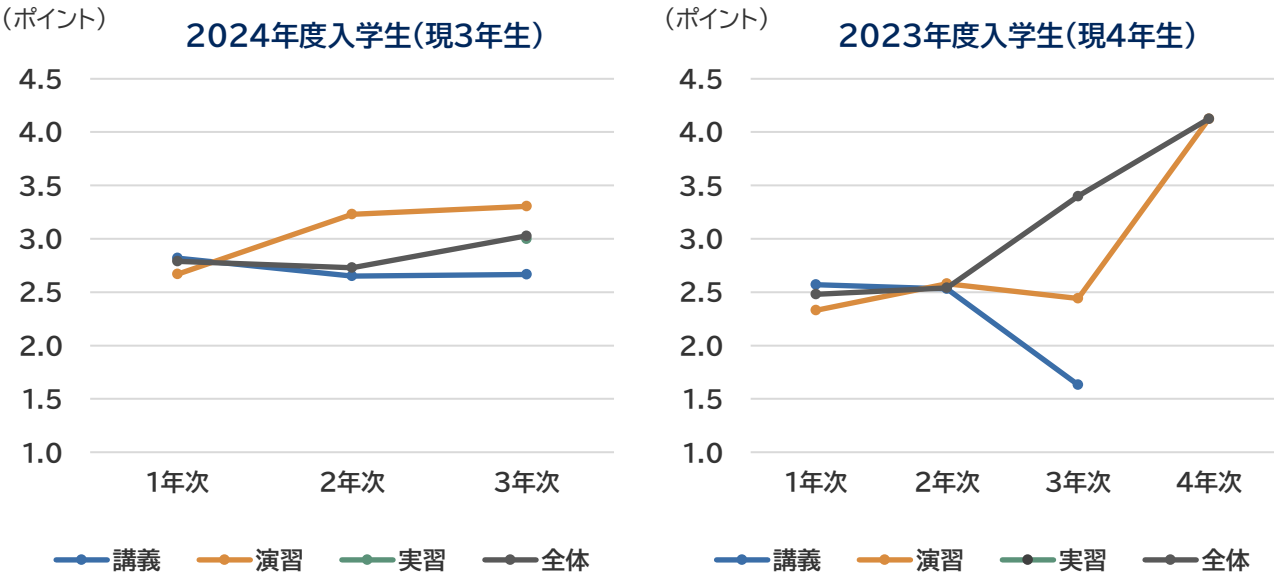
表11 英語コミュニケーションコース 入学年度コホート別在学生の学修時間推移



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2025年	1年次	3.08	2.51		2.79
	2年次	2.58	2.86	3.00	2.79
2024年	1年次	4.33	3.24		3.61
	2年次	1.83	3.00	3.00	2.42
	3年次	3.00	3.49		3.42
2023年	1年次	2.78	3.01		2.90
	2年次	2.71	3.01	2.50	2.85
	3年次	3.19	3.30		3.27
	4年次				

調査項目 I -① 入学年度コホート別学修時間の推移(文化学科)

表12 文化学科 入学年度コホート別在学生の学修時間推移



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2024年	1年次	2.82	2.67		2.79
	2年次	2.65	3.23		2.73
	3年次	2.67	3.30	3.00	3.03
2023年	1年次	2.57	2.33		2.48
	2年次	2.53	2.58		2.54
	3年次	1.63	2.44		3.40
	4年次		4.13		4.13

調査項目 I -② 予習・復習の取組み状況 記述統計

表13 予習・復習の取組み状況

		両方	予習	復習	どちらもあまり やらなかった	やらなかった
1年次科目	講義	11.9%	8.5%	72.4%	5.8%	1.3%
	演習	11.0%	65.9%	16.5%	4.4%	2.2%
2年次科目	講義	19.0%	7.3%	62.4%	8.2%	3.1%
	演習	27.2%	12.1%	51.3%	8.0%	1.4%
	実習	74.5%	25.5%	0.0%	0.0%	0.0%
3年次科目	講義	8.8%	14.0%	65.3%	9.1%	2.8%
	演習	35.4%	29.5%	30.6%	2.8%	1.7%
	実習	11.8%	14.1%	63.5%	7.1%	3.5%
2・3年次科目	実習	32.4%	58.0%	5.7%	3.8%	0.0%
4年次科目	演習	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%

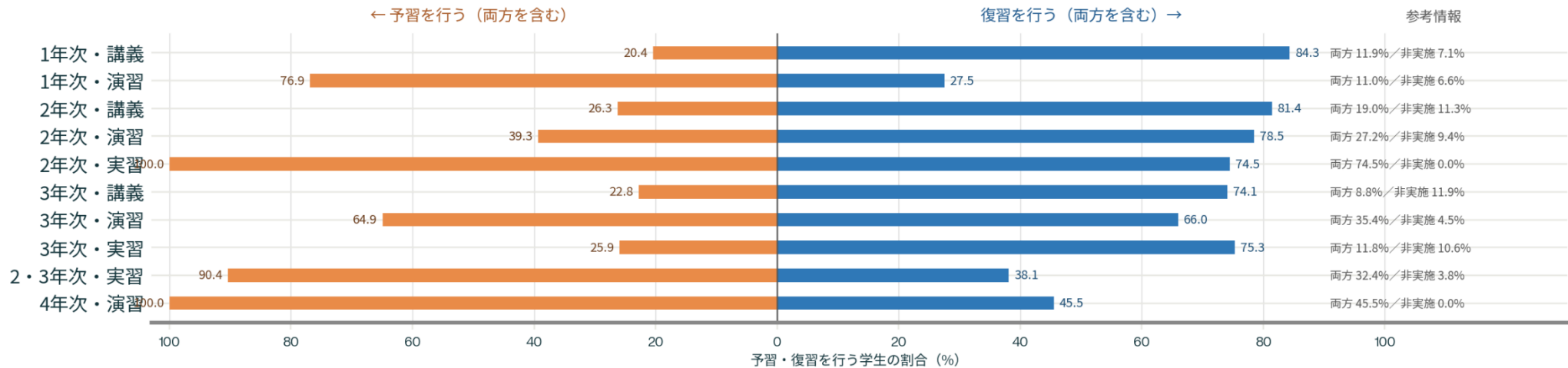
- 講義科目では、1～3年次を通して復習を重点的に行う割合が高く、授業後の振り返りや知識・技能の定着を重視する傾向がみられた。
- 演習科目では年次によって傾向が異なり、1年次・4年次では予習、2年次では復習が中心となった。
- 3年次演習では「両方」35.4%、予習29.5%、復習30.6%と分散しており、予習・復習を組み合わせた学修が特徴的であった。
- 実習科目では、2年次は「両方」74.5%、3年次は復習63.5%と大きく異なり、授業内容・実習形態によって授業外学修のあり方が異なることがうかがえる。
- 「どちらもあまりやらなかった」「やらなかった」の割合は、多くの区分で1割前後以下にとどまる

調査項目 I -② 予習・復習の取組み状況 図表

表14 予習・復習の取組み状況ヒートマップ

		両方	予習	復習	どちらもあまり やらなかった	やらなかった	Percentage (%)
1 年次科目	講義	11.9%	8.5%	72.4%	5.8%	1.3%	74.5 70 60 50 40 30 20 10 0
	演習	11.0%	65.9%	16.5%	4.4%	2.2%	
2 年次科目	講義	19.0%	7.3%	62.4%	8.2%	3.1%	
	演習	27.2%	12.1%	51.3%	8.0%	1.4%	
	実習	74.5%	25.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
3 年次科目	講義	8.8%	14.0%	65.3%	9.1%	2.8%	
	演習	35.4%	29.5%	30.6%	2.8%	1.7%	
	実習	11.8%	14.1%	63.5%	7.1%	3.5%	
2・3 年次科目	実習	32.4%	58.0%	5.7%	3.8%	0.0%	
4 年次科目	演習	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%	

表15 予習・復習の重点度(配当年次・科目区分別)



※『予習』『復習』と回答した割合をそれぞれ左右に配置、『両方』および非実施割合は参考情報として併記し、科目区分ごとの学修行動の傾向を比較。

調査項目Ⅱ 授業評価の調査

調査項目Ⅱ 授業評価(人間学部全体) 記述統計

表16 人間学部全体『7つの力』別 授業評価の平均

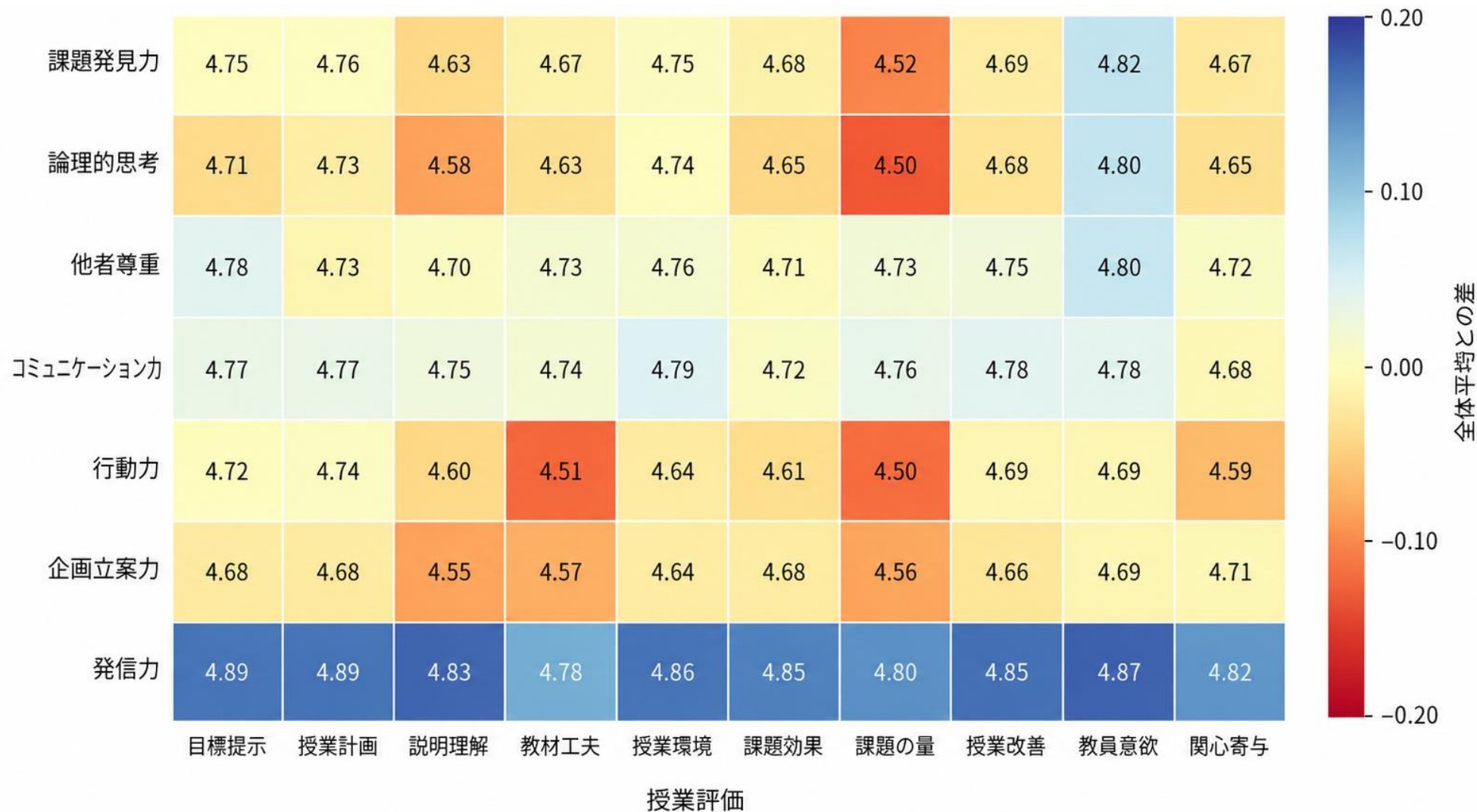
DPとの関係	学習成果目標	科目数	授業評価									
			目標提示	授業計画	説明理解	教材工夫	授業環境	課題効果	課題の量	授業改善	教員意欲	関心寄与
②⑤	課題発見力	45	4.75	4.76	4.63	4.67	4.75	4.68	4.52	4.69	4.82	4.67
②⑤	論理的思考	38	4.71	4.73	4.58	4.63	4.74	4.65	4.50	4.68	4.80	4.65
①④⑤	他者尊重	26	4.78	4.73	4.70	4.73	4.76	4.71	4.73	4.75	4.80	4.72
③④⑤	コミュニケーション力	37	4.77	4.77	4.75	4.74	4.79	4.72	4.76	4.78	4.78	4.68
③⑤	行動力	12	4.72	4.74	4.60	4.51	4.64	4.61	4.50	4.69	4.69	4.59
③⑤	企画立案力	9	4.68	4.68	4.55	4.57	4.64	4.68	4.56	4.66	4.69	4.71
④⑤	発信力	7	4.89	4.89	4.83	4.78	4.86	4.85	4.80	4.85	4.87	4.82
人間学部全体			4.75	4.76	4.66	4.66	4.74	4.70	4.62	4.73	4.78	4.69

- 人間学部全体では、授業評価の各項目がおおむね4.6～4.8点台と高い水準であった。特に「発信力」関連科目は全10項目で学部全体平均を上回り、目標提示・授業計画各4.89、教員意欲4.87など高い評価となった。
- 「コミュニケーション力」「他者尊重」関連科目も多くの項目で学部平均を上回り、対人的・表現的な学習成果に関連する科目群で比較的高い評価がみられた。
- 「行動力」「企画立案力」「論理的思考」関連科目では一部項目が学部平均を下回り、特に課題の量や教材工夫などで相対的に低い評価がみられた。

調査項目Ⅱ 授業評価(人間学部全体) 図表

表17 人間学部全体 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ

色は、各区分における評価項目別平均との差を示す。青・緑は平均を上回る項目、黄は平均付近、赤は平均を下回る項目を表す



調査項目Ⅱ 授業評価(教養教育科目) 記述統計

表18 教養教育科目『7つの力』別 授業評価の平均

DPとの 関係	学習成果目標	科目数	授業評価									
			目標 提示	授業 計画	説明 理解	教材 工夫	授業 環境	課題 効果	課題 の量	授業 改善	教員 意欲	関心 寄与
②⑤	課題発見力	11	4.72	4.81	4.59	4.71	4.68	4.64	4.66	4.65	4.74	4.49
②⑤	論理的思考	7	4.72	4.86	4.63	4.80	4.70	4.75	4.76	4.68	4.69	4.50
①④⑤	他者尊重	11	4.75	4.72	4.64	4.72	4.72	4.65	4.65	4.73	4.81	4.65
③④⑤	コミュニケーション力	14	4.70	4.71	4.63	4.60	4.69	4.60	4.64	4.69	4.72	4.53
③⑤	行動力	4	4.62	4.81	4.62	4.47	4.65	4.46	4.60	4.69	4.61	4.28
③⑤	企画立案力	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
④⑤	発信力	1	4.90	4.98	4.93	4.88	4.93	4.90	4.83	4.88	4.93	4.80
教養教育科目全体			4.74	4.81	4.67	4.70	4.73	4.67	4.69	4.72	4.75	4.54

- 教養教育科目では、「論理的思考」関連科目が授業計画4.86, 教材工夫4.80, 課題効果4.75, 課題の量4.76などで全体平均を上回り, 授業設計・実施に関して比較的高い評価がみられた。
- 「行動力」は教材工夫4.47, 課題効果4.46, 教員意欲4.61, 関心寄与4.28などが全体平均を下回り, 「コミュニケーション力」も多くの項目でやや低い結果となった。
- 「発信力」は全項目で高い評価となったが, 対象は1科目のみであるため参考値として扱う必要がある。

調査項目Ⅱ 授業評価(教養教育科目) 図表

表19 教養教育科目 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ

色は、各区分における評価項目別平均との差を示す。青・緑は平均を上回る項目、黄は平均付近、赤は平均を下回る項目を表す



調査項目Ⅱ 授業評価(心理コミュニケーション学科 心理コース) 記述統計

表20 心理コース『7つの力』別 授業評価の平均

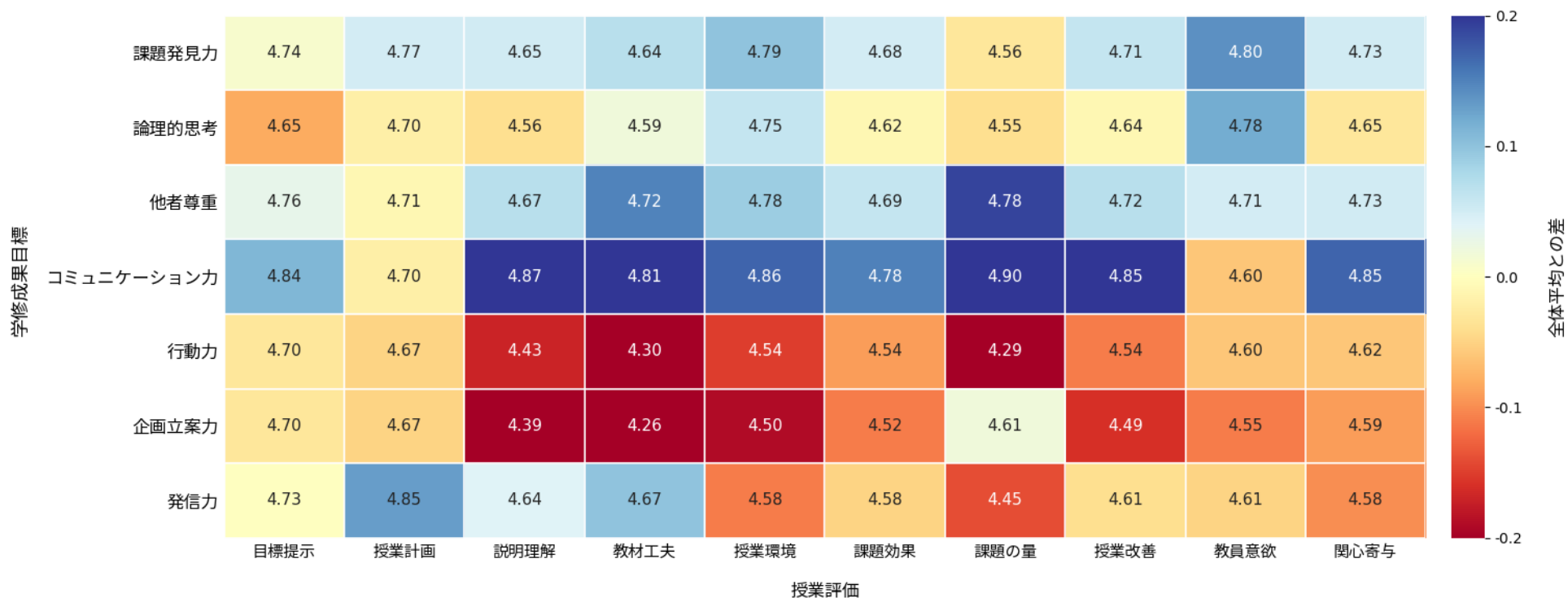
DPとの関係	学習成果目標	科目数	授業評価									
			目標提示	授業計画	説明理解	教材工夫	授業環境	課題効果	課題の量	授業改善	教員意欲	関心寄与
②⑤	課題発見力	17	4.74	4.77	4.65	4.64	4.79	4.68	4.56	4.71	4.80	4.73
②⑤	論理的思考	18	4.65	4.70	4.56	4.59	4.75	4.62	4.55	4.64	4.78	4.65
①④⑤	他者尊重	10	4.76	4.71	4.67	4.72	4.78	4.69	4.78	4.72	4.71	4.73
③④⑤	コミュニケーション力	4	4.84	4.70	4.87	4.81	4.86	4.78	4.90	4.85	4.60	4.85
③⑤	行動力	3	4.70	4.67	4.43	4.30	4.54	4.54	4.29	4.54	4.60	4.62
③⑤	企画立案力	3	4.70	4.67	4.39	4.26	4.50	4.52	4.61	4.49	4.55	4.59
④⑤	発信力	1	4.73	4.85	4.64	4.67	4.58	4.58	4.45	4.61	4.61	4.58
心理コース全体			4.73	4.72	4.60	4.57	4.69	4.63	4.59	4.65	4.66	4.68

- 「コミュニケーション力」「他者尊重」関連科目は、多くの授業評価項目で心理コース全体平均を上回り、対人的な学習成果に関連する科目群で比較的高い評価傾向がみられる。
- 一方、「行動力」「企画立案力」関連科目は、多くの項目でコース全体平均を下回り、特に説明理解、教材工夫、授業環境、授業改善などで低さが目立つ。
- 「発信力」関連科目も項目によるばらつきが大きく、一部で平均を上回るものの、授業環境・課題の量・教員意欲・関心寄与では平均を下回った。

調査項目Ⅱ 授業評価(心理コミュニケーション学科 心理コース) 図表

表21 心理コース 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ

色は、各区分における評価項目別平均との差を示す。青・緑は平均を上回る項目、黄は平均付近、赤は平均を下回る項目を表す



調査項目Ⅱ 授業評価(心理コミュニケーション学科 英語コミュニケーションコース) 記述統計

表22 英語コミュニケーションコース『7つの力』別 授業評価の平均

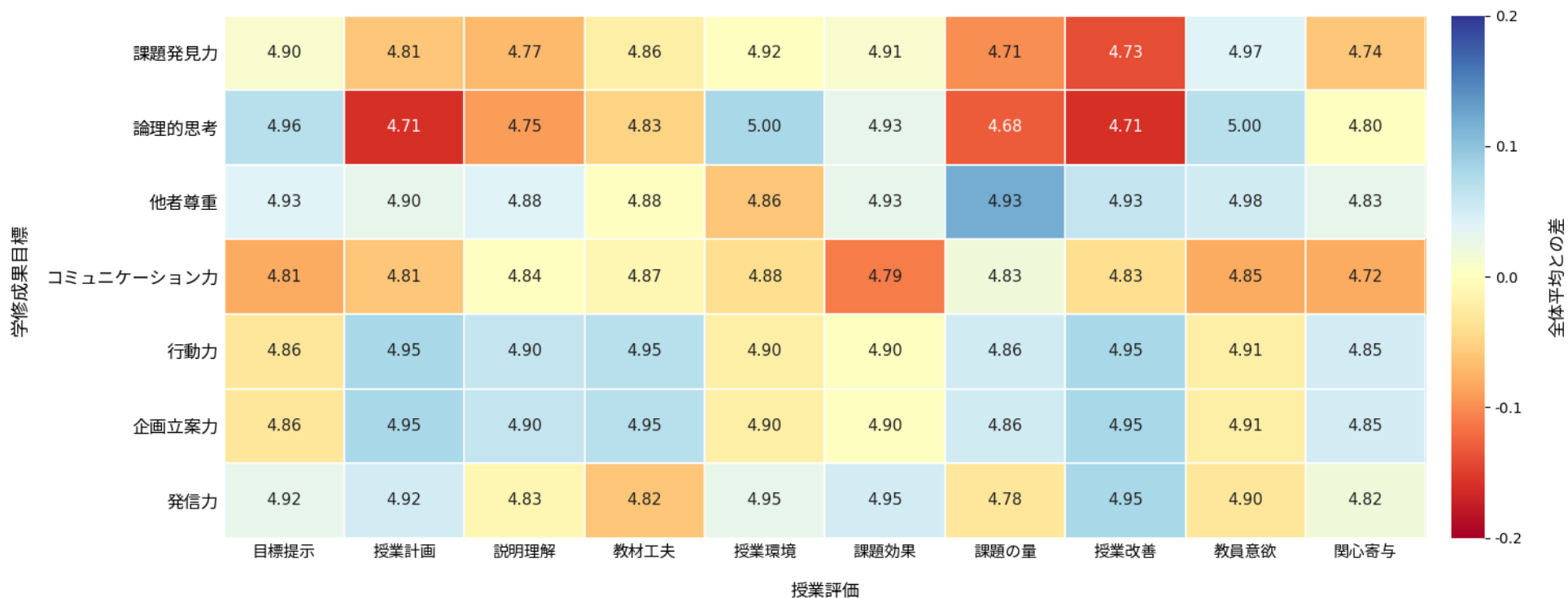
DPとの関係	学習成果目標	科目数	授業評価									
			目標提示	授業計画	説明理解	教材工夫	授業環境	課題効果	課題の量	授業改善	教員意欲	関心寄与
②⑤	課題発見力	7	4.90	4.81	4.77	4.86	4.92	4.91	4.71	4.73	4.97	4.74
②⑤	論理的思考	4	4.96	4.71	4.75	4.83	5.00	4.93	4.68	4.71	5.00	4.80
①④⑤	他者尊重	2	4.93	4.90	4.88	4.88	4.86	4.93	4.93	4.93	4.98	4.83
③④⑤	コミュニケーション力	13	4.81	4.81	4.84	4.87	4.88	4.79	4.83	4.83	4.85	4.72
③⑤	行動力	2	4.86	4.95	4.90	4.95	4.90	4.90	4.86	4.95	4.91	4.85
③⑤	企画立案力	2	4.86	4.95	4.90	4.95	4.90	4.90	4.86	4.95	4.91	4.85
④⑤	発信力	2	4.92	4.92	4.83	4.82	4.95	4.95	4.78	4.95	4.90	4.82
英語コミュニケーションコース全体			4.89	4.87	4.84	4.88	4.92	4.90	4.81	4.87	4.93	4.80

- 「行動力」「企画立案力」関連科目は、授業計画(4.95)、説明理解(4.90)、教材工夫(4.95)、課題の量(4.86)、授業改善(4.95)、関心寄与(4.85)でコース全体平均を上回る。一方、目標提示・授業環境・教員意欲はやや下回る。
- 「論理的思考」関連科目は、目標提示(4.96)、授業環境(5.00)、課題効果(4.93)、教員意欲(5.00)がコース全体平均を上回る一方、授業計画(4.71)と授業改善(4.71)は特に低く、項目による評価差が大きい。
- 「他者尊重」関連科目は、10項目中8項目でコース全体平均を上回る。特に課題の量(4.93)、授業改善(4.93)、教員意欲(4.98)が高く、授業環境(4.86)のみ平均を下回る。

調査項目Ⅱ 授業評価(心理コミュニケーション学科 英語コミュニケーションコース) 図表

表23 英語コミュニケーションコース 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ

色は、各区分における評価項目別平均との差を示す。青・緑は平均を上回る項目、黄は平均付近、赤は平均を下回る項目を表す



調査項目Ⅱ 授業評価(文化学科) 記述統計

表24 文化学科『7つの力』別 授業評価の平均

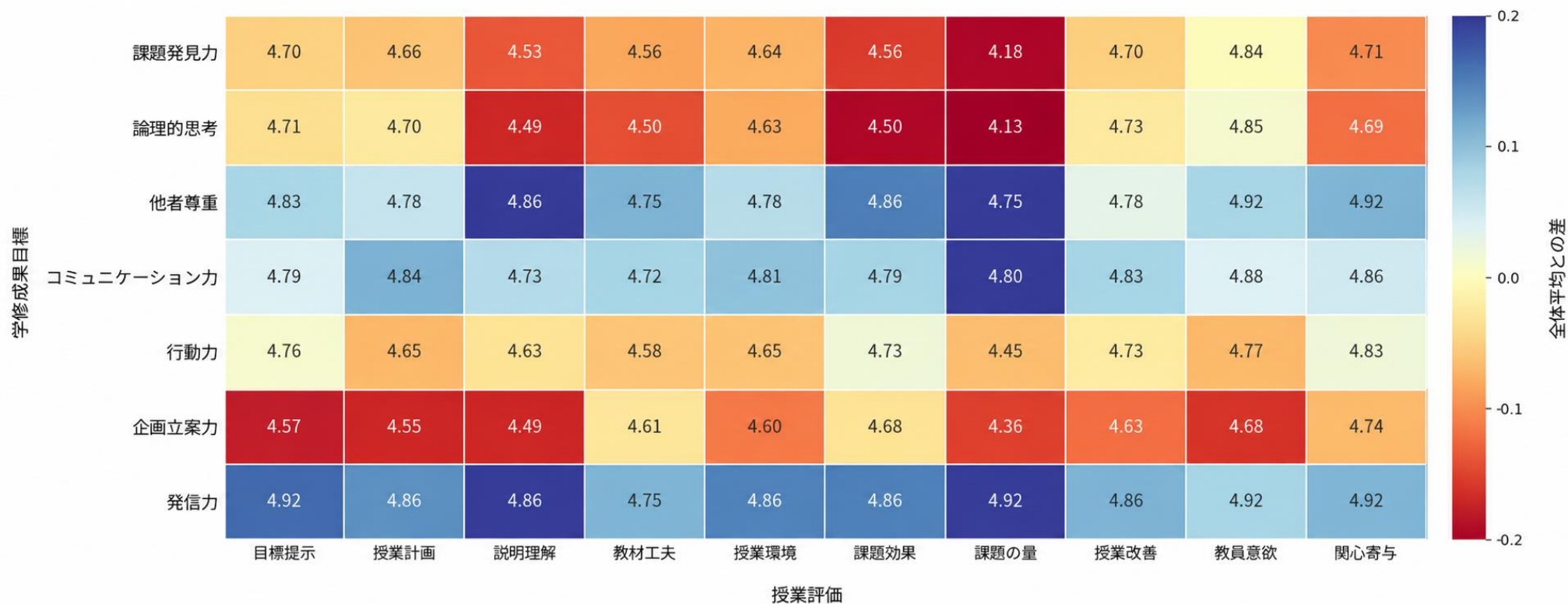
DPとの関係	学習成果目標	科目数	授業評価									
			目標提示	授業計画	説明理解	教材工夫	授業環境	課題効果	課題の量	授業改善	教員意欲	関心寄与
②⑤	課題発見力	10	4.70	4.66	4.53	4.56	4.64	4.56	4.18	4.70	4.84	4.71
②⑤	論理的思考	9	4.71	4.70	4.49	4.50	4.63	4.50	4.13	4.73	4.85	4.69
①④⑤	他者尊重	3	4.83	4.78	4.86	4.75	4.78	4.86	4.75	4.78	4.92	4.92
③④⑤	コミュニケーション力	5	4.79	4.84	4.73	4.72	4.81	4.79	4.80	4.83	4.88	4.86
③⑤	行動力	4	4.76	4.65	4.63	4.58	4.65	4.73	4.45	4.73	4.77	4.83
③⑤	企画立案力	4	4.57	4.55	4.49	4.61	4.60	4.68	4.36	4.63	4.68	4.74
④⑤	発信力	3	4.92	4.86	4.86	4.75	4.86	4.86	4.92	4.86	4.92	4.92
文化学科全体			4.75	4.72	4.66	4.64	4.71	4.71	4.51	4.75	4.84	4.81

- 「他者尊重」「コミュニケーション力」「発信力」関連科目は、多くの授業評価項目で文化学科全体平均を上回り、対人的・表現的な学習成果に関連する科目群で高い評価傾向がみられる。
- 一方、「課題発見力」「論理的思考」「企画立案力」関連科目は、複数の授業評価項目で文化学科全体平均を下回り、「行動力」も一部項目で低めとなっている。
- とくに「企画立案力」は全10項目で文化学科全体平均でも下回っており、課題の発見・整理から企画立案へつながる学習成果に関連する科目群の評価が相対的に弱い点が特徴である

調査項目Ⅱ 授業評価(文化学科) 図表

表25 文化学科 学修成果目標別の授業評価結果ヒートマップ

色は、区分における評価項目別平均との差を示す。青・緑は平均を上回る項目、黄は平均付近、赤は平均を下回る項目を表す



調査項目Ⅲ 授業満足度の調査

調査項目Ⅲ 授業満足度(人間学部全体) 記述統計

表26 配当年次・授業形態別 人間学部全体の授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.80 (0.11)	7	4.64 (0.19)	16			4.69 (0.19)	23
2年次科目	4.71 (0.32)	14	4.57 (0.37)	14	5.00 (0.00)	2	4.66 (0.35)	30
3年次科目	4.63 (0.24)	9	4.77 (0.29)	18	4.90 (0.10)	5	4.75 (0.27)	32
2・3年次科目					4.80 (0.02)	2	4.80 (0.02)	2
4年次科目			4.81 (0.21)	4			4.81 (0.21)	4
人間学部全体	4.71 (0.27)	30	4.68 (0.30)	52	4.90 (0.10)	9	4.71 (0.28)	91

- 人間学部の全91科目の平均満足度は4.71、標準偏差は0.28であり、学部全体として高水準かつ比較的安定した授業満足度が確保されている。
- 昨年度同期の平均値4.67と比較して満足度は若干上昇しており、高水準を維持している。
- 人間学部全体では、2年次でやや低下した後、3年次以降で高くなる傾向がみられた。
- 授業形態・学年別それぞれ、授業満足度の平均値は4.5以上となり、全体的に良好な結果となった。

参考
過去5か年の
満足度推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
4.67	4.68	4.67	4.70	4.67

調査項目Ⅲ 授業満足度(教養教育科目) 記述統計

表27 配当年次・授業形態別 教養教育科目の授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.78 (0.13)	4	4.60 (0.18)	14			4.64 (0.19)	18
2年次科目	4.63 (0.21)	3	4.41 (0.00)	1	5.00 (0.00)	1	4.66 (0.25)	5
2・3年次科目					4.80 (0.02)	2	4.80 (0.02)	2
教養教育科目全体	4.71 (0.18)	7	4.59 (0.18)	15	4.87 (0.10)	3	4.66 (0.20)	25

- 教養教育科目の全25科目の平均満足度は4.66, 標準偏差は0.20であり, 学部全体と比べてやや下回ったものの, 高水準かつ比較的安定した授業満足度が確保されている。
- 昨年度同期の平均値4.63との比較では, 概ね同水準となった。
- 授業形態・学年別それぞれ, 授業満足度の平均値は4.5以上となり, 全体的に良好な結果となった。

参考
過去5か年の
満足度推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
4.63	4.63	4.61	4.70	4.68

調査項目Ⅲ 授業満足度(心理コミュニケーション学科 心理コース) 記述統計

表28 配当年次・授業形態別 心理コースの授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.86 (0.06)	2					4.86 (0.06)	2
2年次科目	4.58 (0.36)	6	4.47 (0.24)	4			4.53 (0.33)	10
3年次科目	4.67 (0.20)	5	4.79 (0.32)	8	4.94 (0.07)	4	4.79 (0.26)	17
心理コース全体	4.65 (0.29)	13	4.68 (0.33)	12	4.94 (0.07)	4	4.71 (0.31)	29

- 心理コース科目における授業満足度の平均値は、4.71であった。
- 昨年度同期の平均値4.51と比較して満足度が0.2ポイント上昇している。
- 授業形態別では、実習が4.94で最も高く、演習4.68、講義4.65が続く。実習は4科目と少数ではあるものの、標準偏差0.07と科目間の差も小さく、安定して高い評価が得られている
- 3年次科目は17科目で平均4.79と高い。講義4.67に対し、演習4.79、実習4.94と、参加型・実践型の授業形態ほど高い傾向がみられる
- 実習科目での満足度は4.9以上と高水準値である反面、講義科目は4.65となっており、全体平均値を押し下げている。

参考
過去5か年の
満足度推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
4.51	4.47	4.54	4.73	4.71

調査項目Ⅲ 授業満足度(心理コミュニケーション学科 英語コミュニケーションコース) 記述統計

表29 配当年次・授業形態別 英語コミュニケーションコースの授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
1年次科目	4.76 (0.00)	1	4.89 (0.02)	2			4.85 (0.06)	3
2年次科目	4.87 (0.18)	3	4.78 (0.29)	6	5.00 (0.00)	1	4.83 (0.26)	10
3年次科目	5.00 (0.00)	1	4.89 (0.25)	6			4.90 (0.23)	7
英語コミュニケーションコース全体	4.88 (0.16)	5	4.84 (0.26)	14	5.00 (0.00)	1	4.86 (0.23)	20

- 英語コミュニケーションコース科目全体の授業満足度は4.86であり、人間学部全体4.71を0.15ポイント上回った。
- 昨年度同期4.76から0.10ポイント上昇しており、人間学部内でも最も高い水準となった。ただし他学科・コースと比べてサンプル数が小さいため参考値として考慮する必要がある。
- 授業形態別による差は小さく、講義・演習ともに4.8点台半ば以上で、授業形態を問わず高い満足度が保たれている。

参考
過去5か年の
満足度推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
4.76	4.86	4.73	4.82	4.78

調査項目Ⅲ 授業満足度(文化学科) 記述統計

表30 配当年次・授業形態別 文化学科の授業満足度の平均

配当年次	講義		演習		実習		全体	
	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数	M (SD)	科目数
2年次科目	5.00 (0.00)	2	4.33 (0.47)	3			4.60 (0.49)	5
3年次科目	4.46 (0.19)	3	4.57 (0.19)	4	4.75 (0.00)	1	4.55 (0.20)	8
4年次科目			4.81 (0.21)	4			4.81 (0.21)	4
文化学科全体	4.67 (0.31)	5	4.59 (0.35)	11	4.75 (0.00)	1	4.63 (0.33)	17

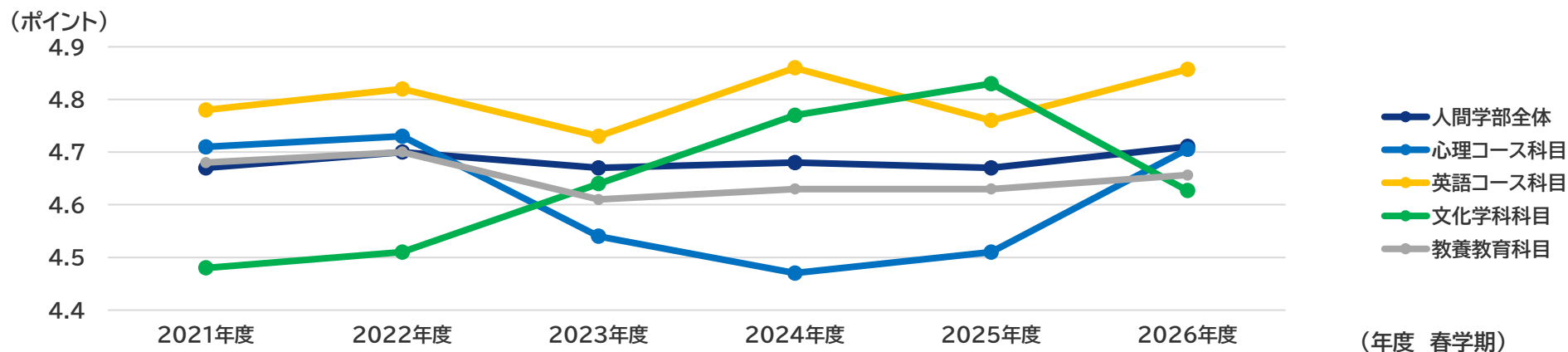
- 文化学科科目における授業満足度の平均値は、4.63であり、人間学部全体4.71を0.08ポイント下回った。主な特徴は、2年次演習の相対的な低さと、4年次演習の高評価にある。
- 2年次科目は全5科目で平均4.60である。講義は2科目ながら5.00と非常に高い一方、演習は4.33であり、授業形態間の差が大きい。
- 4年次科目は演習4科目のみで、平均4.81である。標準偏差0.21と比較的安定しており、専門性の高い上級年次演習が学生から高く評価されている
- 昨年度同期の平均値4.83と比較して満足度が0.2ポイント下降しているが、これは2年次配当科目の4.33が平均を大きく押し下げた影響による。

参考
過去5か年の
満足度推移

2025年度春	2024年度春	2023年度春	2022年度春	2021年度春
4.83	4.77	4.64	4.51	4.48

調査項目Ⅲ 授業満足度の学科・コース別経年推移

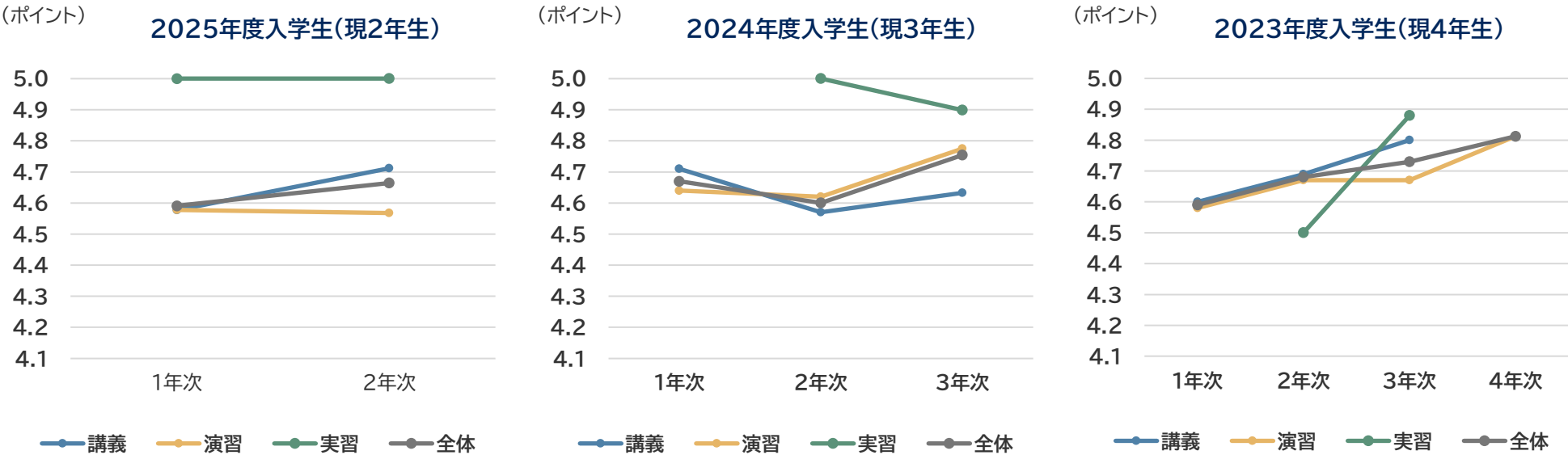
表31 人間学部全体/学科/コース の授業満足度推移グラフ(平均値)



	人間学部全体	心理コース科目	英語コース科目	文化学科科目	教養教育科目
2021年度	4.67	4.71	4.78	4.48	4.68
2022年度	4.70	4.73	4.82	4.51	4.70
2023年度	4.67	4.54	4.73	4.64	4.61
2024年度	4.68	4.47	4.86	4.77	4.63
2025年度	4.67	4.51	4.76	4.83	4.63
2026年度	4.71	4.71	4.86	4.63	4.66

調査項目Ⅲ 入学年度コホート別授業満足度の推移(人間学部全体)

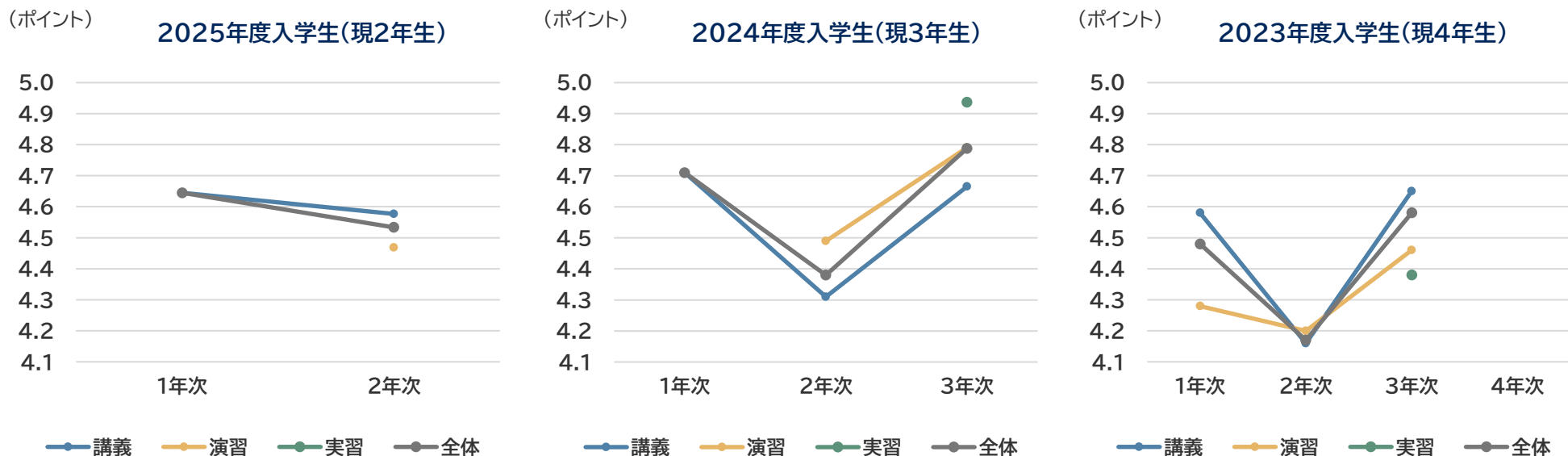
表32 人間学部全体 入学年度コホート別在学生の授業満足度推移(平均値)



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2025年	1年次	4.58	4.58	5.00	4.59
	2年次	4.71	4.57	5.00	4.66
2024年	1年次	4.71	4.64		4.67
	2年次	4.57	4.62	5.00	4.60
	3年次	4.63	4.77	4.90	4.75
2023年	1年次	4.60	4.58		4.59
	2年次	4.69	4.67	4.50	4.68
	3年次	4.80	4.67	4.88	4.73
	4年次		4.81		4.81

調査項目Ⅲ 入学年度コホート別授業満足度の推移(心理コミュニケーション学科 心理コース)

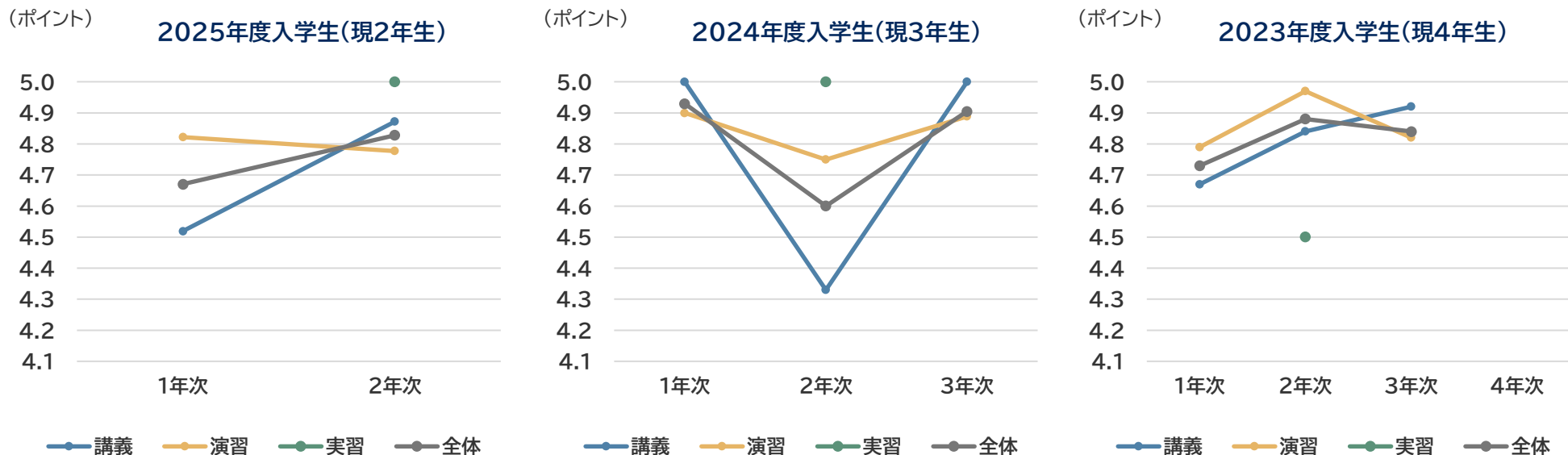
表33 心理コース 入学年度コホート別在学生の授業満足度推移(平均値)



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2025年	1年次	4.64			4.64
	2年次	4.58	4.47		4.53
2024年	1年次	4.71			4.71
	2年次	4.31	4.49		4.38
	3年次	4.67	4.79	4.94	4.79
2023年	1年次	4.58	4.28		4.48
	2年次	4.16	4.20		4.17
	3年次	4.65	4.46	4.38	4.58
	4年次				

調査項目Ⅲ 入学年度コホート別授業満足度の推移 (心理コミュニケーション学科 英語コミュニケーションコース)

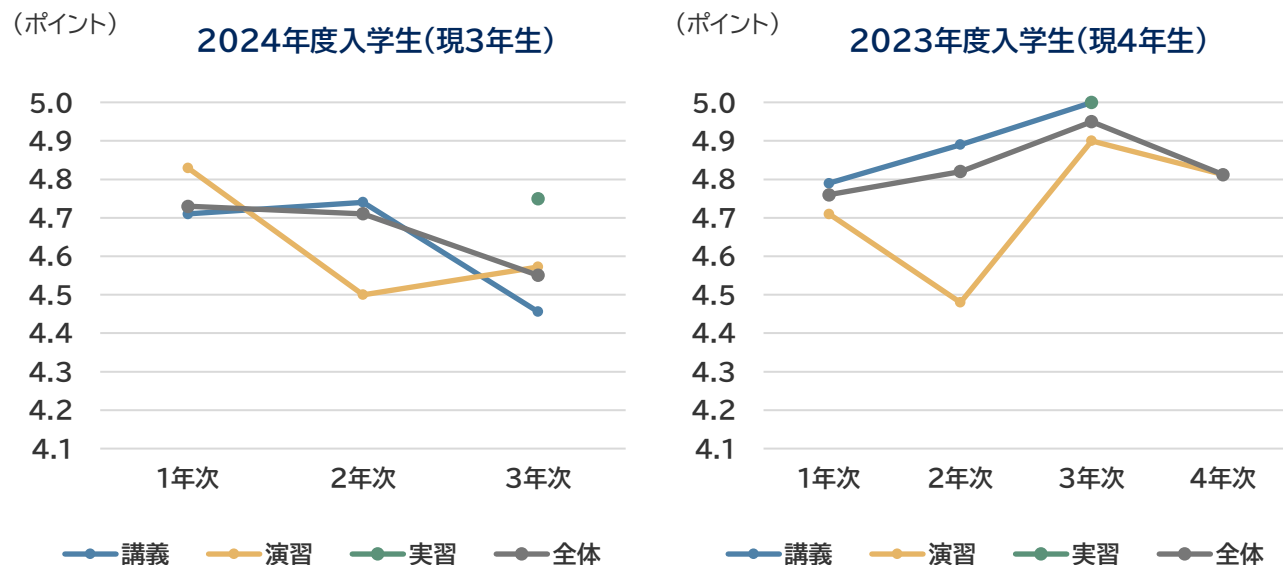
表34 英語コミュニケーションコース 入学年度コホート別在学生の授業満足度推移(平均値)



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2025年	1年次	4.52	4.82		4.67
	2年次	4.87	4.78	5.00	4.83
2024年	1年次	5.00	4.90		4.93
	2年次	4.33	4.75	5.00	4.60
	3年次	5.00	4.89		4.90
2023年	1年次	4.67	4.79		4.73
	2年次	4.84	4.97	4.50	4.88
	3年次	4.92	4.82		4.84
	4年次				

調査項目Ⅲ 入学年度コホート別授業満足度の推移(文化学科)

表35 文化学科 入学年度コホート別在学生の授業満足度推移(平均値)



入学年度	学年	講義	演習	実習	全体
2024年	1年次	4.71	4.83		4.73
	2年次	4.74	4.50		4.71
	3年次	4.46	4.57	4.75	4.55
2023年	1年次	4.79	4.71		4.76
	2年次	4.89	4.48		4.82
	3年次	5.00	4.90	5.00	4.95
	4年次		4.81		4.81

まとめ

- 人間学部全体の学修時間は平均2.82(推定54.4分)となり、近年の低下傾向から上昇に転じた。専門科目では高年次の演習・実習で学修時間が長い一方、教養教育科目は平均2.45と学部全体を下回った。
- 予習・復習では、講義科目で復習を重視する傾向がみられた。一方、演習・実習では配当年次や授業形態によって取組の特徴が異なった。
- 「7つの力」別の授業評価では、「発信力」「コミュニケーション力」「他者尊重」に関連する科目群で比較的高い評価がみられた一方、「行動力」「企画立案力」などでは一部項目が相対的に低かった。教養教育科目でも成果目標によって評価の特徴がみられた。
- 授業満足度は人間学部全体で4.71と高い水準を維持し、教養教育科目も4.66と高水準であった。
- 学科・コース別では、英語コミュニケーションコース4.86が高く、心理コースは前年4.51から4.71へ上昇した。一方、文化学科は4.63と前年から低下しており、区分によって異なる推移がみられた。